

Title	特集「教学DX」について
Author(s)	浦西, 友樹
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2024, 24, p. 3
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97779
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

特集「教学DX」について

サイバーメディアセンター

准教授 浦西 友樹

高等教育におけるDX、すなわち教学DXの始まりはいつなのか。この問いに対しはっきりとした答えを示すことは困難である。ただ、筆者が記憶しているところによると、シカゴにて開催されたEDUCAUSE2019において、Digital Transformationに関するトピックがTOP 10 IT Issuesとして取り上げられ、参加した本学教職員らで「DXとは一体何なのか」というところから議論したことが思い出される。そのまま2020年代に入った日本の大学は、新型コロナウイルスの拡大という大きな変化とともにあり、それに適応するための手段としてもDXというコンセプトが大きく広がっていったと認識している。

その一方で、DXという言葉が指すものは広範にわたり、様々な捉え方が可能である。教学DXにおいては、まさに「十大学十色」とも言えるさまざまな取り組みがなされているとも言えよう。ただ、教学DXというのが世の中全体のDXと比べてどれだけ進んでいるのか、進んでいないのか——この問いに答えることは容易ではないが、少なくとも本学においては解決に多大な労力を要する問題であり、いみじくも鎗水先生が巻頭にてご紹介された通り、本学においても全力で取り組んでいるところである。本特集は、そんな本学を含む国内の大学におけるいくつかのDXに関する取り組みについて紹介することで、教学DXというものの全体像を捉えたいという目的で企画された。

本特集については、学内外より3本の記事をご寄稿いただいた。サイバーメディアセンターの下西英之教授、大下裕一准教授、大平健司准教授には、「大学キャンパスの“リビングラボ化”を目指して」と題し、社会問題を解決するための実験場として大学キャンパスを活用するキャンパス・リビングラボの概念をご紹介いただくとともに、それらを実現するための技術についてご説明いただいた。全学教育推進機構の村上正行教授には、「大阪大学における教育DX」と題し、本学における教育DXの取り組みについてご紹介いただいた。また、神戸大学DX・情報統括本部DX推進部門の村尾元教授には、「神戸大学における教育DX」と題し、神戸大学における組織的なDXの取り組みをご紹介いただいた。

いずれの記事も非常に臨場感に溢れ、教育という現場におけるデジタル化、DXがどれほど困難であり、一方で重要であるかという事がひしひしと伝わってくる。本特集によって紹介された様々な事例が、皆様のご参考になれば幸いである。